

ヨコワ来遊予報調査 (鹿児島大学水産学部との共同研究)

中野 正明

【目的】

ヨコワ(クロマグロ幼魚)の主漁期(12月～翌年4月)前に、本県におけるヨコワの漁況を予測し、本県漁業者へ情報提供する。

【方法】

本県に先立って漁場が形成される各県の漁獲データや海況データを収集し、本県の漁期全体のヨコワ漁況を予測した。

1 漁獲データ収集先

北部太平洋まき網漁業協同組合連合会

新潟県水産海洋研究所・鳥取県水試・島根県水産技術センター・山口県水産研究センター・高知県水試
長崎県総合水試・沖縄県水産海洋研究センター

2 漁況予測手法

近隣海域のヨコワ等の漁模様及び水温等の海況要因が当県のヨコワ漁獲量にどのような影響を与えるか、平成23年度から鹿児島大学水産学部水産生物・海洋学分野 准教授 庄野 宏 氏と共同で検討・分析を行っている。

平成28年度も、これまでと同様に、昭和62年以降の長崎県ヨコワ漁獲量、高知県ヨコワ養殖用種苗漁獲量、沖縄県クロマグロ漁獲量、日本海まき網船のクロマグロ漁獲量、本県ヨコワ養殖用種苗漁獲量、前年度の本県ヨコワ漁獲量、本県カツオ漁獲量及び南薩・西薩海域の水温、黒潮の離接岸状況を説明要因として、サポートベクター回帰と呼ばれる統計的機械学習に基づく手法により、平成28年度漁期(平成28年12月～平成29年4月)の南薩地域(枕崎市漁協、笠沙町漁協、南さつま漁協野間池本所)におけるヨコワ漁況予測を実施した。

【結果及び考察】

上記の手法により予測されたヨコワの漁獲量は13.2～16.5トンと推定されたが、直前の漁海況情報を勘案して、平成28年1月19日付けで以下のような発表を行った。

今年度漁期のヨコワ漁獲量は、前年(0.9トン)、平年^{*1}(3.5トン)を上回る漁模様となるでしょう。

*1 近年はH23～27年の5ヶ年平均値

*2 「上回る」:前年(平年)の1.2倍以上、「並み」:前年(平年)の0.8～1.2倍

「下回る」:前年(平年)の0.8倍以下

漁期終了後(平成28年12月～平成29年4月末まで)の南薩地域におけるヨコワ漁獲量は約7.1トンと前年、平年を超える漁獲量となった。

しかし、今後、くろまぐろ資源管理による、操業自粛等の措置により漁獲量データから来遊量を予測する方法が難しくなることが予想されるため、説明要因や統計手法の再検討を行う必要があると思料される。